

ほっと通信

NO1 春号

多くの方とほっとなハートでつながっていただけるように、年に数回発行する事にいたしました

NO1は春号です。皆様のご意見、感想原稿等お寄せ下さい。

発行人 石巻市住吉町2丁目3-4
三浦エミ子 (95) 3117

花と女性と震災と

スワン国際協力の会代表 千葉直美

2011年3月11日の東日本大震災の被災地石巻市で、スワン国際協力の会（本部石巻市）は女性達と共に、花や緑による安らぎと癒しの空間作りをしています。震災直後、泥だらけの黒や灰色の中で、何か色があったらいいのになあと漠然と考えていました。5月になると日本や海外の知人、見知らぬ方々から花の苗、球根、種、土が次々と送られ始め、道行く人々が楽しめるような公共の道路脇や個人宅の敷地に花壇や花畑を作り、また仮設住宅内の集会所には鉢植えやプランターで提供することができました。

花壇や花畑作りの参加者は、家族や親しい人を亡くした人、家を流失した人、仮設住宅等での慣れない生活を余儀なくされた人などで、心身ともに傷ついた女性達にとって、花と緑に接することは、少しでも悲しみや苦しみを和らげる効果がありました。花を見ることで落ち着きを取り戻し、土に触れる手作業で気持ちの回復になり、また仲間との共同作業により新しい知人ができて連帯感が生まれました。実際に参加する女性達同士の結びつき、活動を支えてくださっている国内外の方々との結びつき、遠方から駆けつけてボランティアとして作業を手伝ってくださる個人やグループとの結びつき等、緩やかなコミュニティができて、ネットワークが広がっています。

水やりと草むしりは予想をはるかに超えて大変ですが、女性達のみならず力仕事には地域の男性達にも無償で奉仕していただいています。被災した女性が経営する複数の花屋から、できるだけ花の苗を購入しました。精神的にも物質的にも不安定な状況にある女性達が、笑顔のあふれる和やかな時間と空間を共有することができ、これからも続けていきたいと思えます。

また2013年までは、プリザーブドフラワーや造花をあしらった手作りのリースやブーケ、飾り物、置き物、花をテーマにしたアロマスプレーやハンカチ、花瓶、皿、スカーフ、カード、ハーブティ、化粧品、コサージュ、バックもたくさん届き、被災した女性達にお渡する機会もありました。手書きのメッセージがいつも添えられていました。生け花教室も開催し、震災後、生活することで

精一杯で花を生けることを想像さえしなかった女性達に、ふと立ち止まってホッとする時間を過ごしていただきました。

生け花教室に参加したことで継続して習い始める女性もいました。花と緑が生命力が、未来への街作りの中に生かされればと祈っています。

連絡先：スワン国際協力の会

email: swan20110311@gmail.com

